

足利風 -ashikaga-fu

2023
秋号
Vol.87



画：斎藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- * 特集！
「脆弱性”は相互扶助で乗り越えろ！」
- * 言葉のあやとり
「ジェンダー (Gender)、LGBTQ」
- * 私のボランティアことはじめ
「旨みのたまり場「なべのそこ」ができるまで」
- * マチのちゃぶ台
「コンサイス英和辞典と足利」
- * INFORMATION

* 特集！ *

「脆弱性」は相互扶助で乗り越えろ！」

「無一物中無尽蔵」という禅語がある。無の中に有、虚の中に実を観る。我執我欲を捨て、心を虚しくすれば、そこに豊かさが満ちて来る。道元が「放てば手に充てり」と喝破した境地だ。背景にある仏教思想は、どんな宝も無尽蔵になるべきで、それには一



人ひとりが“無尽燈”となった火を燈すのがいい。小さな目的でも共通する仲間がいるなら、その実現のために短期的に「講」を創っていこうという発想だ。庶民救済のための相互扶助組織（ローカル・マイクロファイナンス）の「無尽講」（頼母子講）、つまり母の尽きることのない愛ということ。鎌倉時代末期から芽生え、寺院が集める無尽財・屋根を葺くための無尽茅・メンバーが会食する無尽茶屋・・・などがあつた。各地で、多様な特色をもって始められた。それは、目的を達成したら、メンバーを変えたり、解散できるような軽さを持っていた。今日の社会に欠けているの

は、このような仏教的互恵性や軽みのある組織観ではないか。会社・コミュニティ・NPOでは重すぎることもある。そこを自在に通り返られる仕組みが必要だ。かつてこのような経済社会のありかたを、人類学のモースや、経済人類学のポランニーは“贈与互酬性の経済”と呼んでいた。

コロナ禍（COVID-19）によって人間の知恵の浅薄さが顕著になった。ウィズ・コロナ、ニュー・ノーマル、グレート・リセット、テレワーク等々の言葉に引きずり回された。それぞれの人の生活・働き方にノーマル・アブノーマルは無い。各自のやり方が在るだけだった。次の時代の勝ち組を目指す前にすることがあるだろうと思う。コロナがあぶり出したこの世界の“脆弱性”や“これまでのやり方”について自省が必要だ。“脆弱性”である貧富格差・人種差別・障害者差別による社会の分断は少しも改善されず、むしろコロナによって浮き彫りになっただけだ。はっきしたのは現在を生きる我々は「人間は自己利益を最大化するように行動する」人間モデル～経済成長を基盤とする経済合理性から出発している！だけだったのだ。（M生）

* 言葉のあやとり *

「ジェンダー（Gender）」、「LGBTQ」

* 「ジェンダー（Gender）」

～社会的・文化的な概念であり、生物的な性（Sex）とは異なる多義的概念。

→「ジェンダー・フリー」という表現により、性別カテゴリー自体の打破を視野に入れている。！

* 「LGBTQ」=ジェンダーの多様性を表している！

～“レズビアン”（女性を愛する女性）・“ゲイ”（男性を愛する男性）・“バイセクシュアル”（女性または男性、あるいはその他の2つ以上の性に惹かれる人）・“トランスジェンダー”（身体の性と心の性が異なる人）・“



クィア”（上記以外の様々な性自認の人の総称）・・・その他「LGBTQ」に代わり「SOGI」（すべての人の属性を表す略称）を用いることもある。

* 私のボランティアことはじめ *

旨みのたまり場「なべのそこ」ができるまで

なべのそこ 代表 木村 沙和

足利へ移住してきて4年、移住と同時に就いた地域おこし協力隊（移住先の地域活性活動をする職）の任期が終了し、これからどんな形で地域と関わりたいか自問した時、個人事業を始めてみようと思った。やりたいことは「地域の魅力を発信する」事業。元々興味を抱いていた、このまちのこと・もの・ひとに関して、もっと知りたいし広めたい、そして新たな繋がりを築いていきたいと思った。このまちという「なべ」の中に様々な魅力が交じり合い煮込まれて、沁みだした旨みがたまる場を作りたい。それが「なべのそこ」。



なべのそこ

丁度そのころ、夫が営むおでん屋の隣家が、アートイベントの会場として利用されることになった。大正6年に建てられた商家、数年前から空き家となり、年を経てほこりが被ってはいたが、頑丈な造りで住人だった方が丁寧に使われていたのだなと感じられる様子だった。元々真新しい建物より、誰かの歴史を纏った古い建物が好きな私は、夫に相談してみた。この家に住むことができないかなあと。

夫のおでん屋が面する北仲通りで、今私たちは仲間と共に、商いだけでなく地域との関わりを大切にしたいと思い活動を行っている。このエリアにもう一つ場ができることは、意味のあることなんじゃないかと。リスクを承知した上でついにこの家に住み始めた。そして「すみびらき」というスタイルで今、半分住居、半分「なべのそこ」のオフィスとして活用している。

「なべのそこ」では「地域の魅力を発信する」様々な試みをしているところ。建物の素晴らしさを共有するレンタルスペース、このまちの自然・文化の魅力を利用したワークショップ企画、路地裏に広がる歴史の重なりを愉しむローカルツアー企画、自費出版・編集・取材のローカルマガジン「足利の嫁」発行、ちょっと深い土産物店の出店やオンラインストアの運営、川向うまで足をのばしてまちを感じるレンタサイクルの運営等。アイデア次第でどんどん広がる夢の事業。儲かるかは別として。このまちに暮らし、家族や仲間と大変なことを乗り越えて、楽しいことは共有して。わたし、やっぱりこのまちが好き！

* マチのちゃぶ台 * 「コンサイス英和辞典と足利」

東京の伯父・石川高夫が亡くなって、一年。その伯父から聞いたのだが、祖父石川次夫・祖母キチは通3丁目にあった履物店の隣で「本屋」をしていた。しかし、祖父の次夫が病に倒れ、祖母は本屋をたたんで、子供たちを連れて、東京へ出たのだという。伯父の話によれば、3丁目の石川家からは、足利（郷土）の偉人が出ているという。「石川角次郎」（聖学院神学校同中学校を創設し、終生キリスト教を説き続け、心の教育に尽力した。）もう一人は「石川林四郎」（三省堂のコンサイス英和辞典で有名であり、わが国の英語教育学会に偉大な足跡を残された。）であり、明治・大正・昭和と時代が遠くなる中でも、忘れてほしくない人々です。



（文責・木村寛）

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和5年10月20日(金) PM2:00～4:00

*本 : 「職人」(永 六輔)

*案内人 : 飯島 秀雄 さん

*ひとこと:「僕は、これを一番書きたかった!」と、永 六輔さんが言っているように、日本人として一番誇りにしなければならない人たちの話がテンコモリです。金儲けよりも仕事の出来具合を誇りにし、意地を大事にし、名を売ることよりも清貧であることを貫く人たち。永 六輔の頑固な味と、職人たちの世界観の取り合わせの妙がいっぱいの本です。一緒に、日本の良さを味わいましょう!

★令和5年11月17日(金) PM2:00～4:00

*本 : 「アドラー“人生の意味の心理学”」(岸見 一郎)

*案内人 : 木村 寛 さん

*ひとこと:変われない? 変わりたくない? 人生は変えられる!それをさまたげているものの正体を見つめよ・・・オーストリア出身の心理学者・精神科医アドラーは、人間の苦悩はすべて対人関係から生まれるものだと喝破して、幸福に生きるための方法としての個人心理学を提唱した。日本にアドラーブームを起こした著者が読みとくアドラー思想の神髄を、一緒に!

★令和5年12月16日(土) PM1:00～3:00

*本 : 「スペイン・サンティアゴ巡礼の道 新装版 聖地をめざす旅」(高森 玲子)

*案内人 : 清水 弘一さん

*ひとこと:フランス国境を越え、スペインの西の果てまで・・・無心に歩いて、食べて眠って、また歩く。そんな繰り返し、人生をよみがえらせてくれる～そんな、魂を癒す旅を・・・美しい写真と文章と共に味わってみませんか。実際に歩いた案内人・清水さんの感想や思い出とともに癒しの巡礼の旅を!

■参加費:無料

■会場/問い合わせ:足利市民活動センター☎44-7311

☆「企画展」(交流コーナー) (土・日・祝日・11/20・12/18は休館日)

10月 2日(月)～10月12日(木) 好彩会色鉛筆画展

10月17日(火)～10月26日(木) 足利絵手紙の会展

10月30日(月)～11月 9日(木) 川島直人水彩画展

11月13日(月)～11月22日(水) なべのそこ展

11月27日(月)～12月 7日(木) 足利子どものえがお展

12月11日(月)～12月21日(木) NPO 法人足利歴史まちづくりの会展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで

☆「相談室」&「茶論」 ※詳しくは、別紙参照

*相談室 = 10月11日(水) 14:00～16:00 日本茶を美味しく淹れる

11月 8日(水) 14:00～16:00 お部屋の整理整頓術

12月13日(水) 14:00～16:00 まちづくり～はじめの一步～

*茶 論 (ぼぼら出前講座) =

10月14日(土) 13:00～15:00 NPO の運営

11月11日(土) 13:00～15:00 地域のつながり

編集後記

全国でも珍しい「農業科」が喜多方市の小学校にある。作物は単なる食べ物ではない。命をつなぐ「生きる」ものと気づかせる。児童の地元愛も連れて深化する。京大・藤原辰史さんの「植物考」。人間と動物や植物との関係に再考を迫る。植物は相手の息の根を止めるのではなく、共に再生可能な形で小さな犠牲を分かち合いながら共存の道を探ってゆく。
(カサブランカ)